



私の仕事上
当然のことで
あるが、私
の研究室には
大型の分類ケ

ースがあつて各別、各地域別、そして
各別、各別、各地域別、そして
各別、各別、各地域別、そして
各別、各別、各地域別、そして
各別、各別、各地域別、そして

悪記事見本

中嶋 嶺 雄

国以外でも、これらの見本どおりに情勢
が推移すれば、たとえばカンボジアにつ
いては、とくにシアヌーク政権がフン
ペンに復権してはならないはずである。

あれはたしか一九七〇年五月だったと
思うが、カンボジア情勢の急が吉げられ
て、旅行者のフンペン入りさえ制限さ
れていたとき、私はたまたまフンペン

運たらしきりに解脫されたが、またまた
そのようではなさそうである。それとこ
ろが、この十月下旬にシアヌーク殿下が
「ル・モンド」特派員に吐露しているこ
ころによると、「私はもはやカンボジア
には戻らず、死ぬまで北京にとどまるつ
もだ」と語って、北京やモスクワがシ
アヌーク殿下抜きで「フメール・ルーシ
ユ」と接触していることに不満を表明し
ておられる。

カンボジア情勢一つをとっ
てみても、表面的な現象や政
治的プロパガンダのみ依拠
してはとらえられないロ
ーカルな歴史と現実がそこに
あることを忘れてはならな

「悪記事見本」と書いたラッ
ルをはりつけたものがある。

今年も、そろそろケースを

整理する時期が迫っているが、いま、こ
の「悪記事見本」に入っている新聞スク
ラップの台紙を一枚一枚みてゆくと、や
はり、なにか空乏しいような、寒々とし
た気持ちにならざるを得ない。そのなか
には中国に関する記事や論説、防中記な
どが多いのは、私の仕事上どうなのか、
中国報道そのものの問題なのか、いまあ
えて即断することは避けよう。だが、中

を訪れたが、そこに私が見出したもの
は、戦火どころかアジアのどの地域より
ものんびりした仏教社会特有の牧歌的現
実であり、日本の新聞が四段ぬき、五
段ぬきでセンセーショナルに伝える「戦
火」は、郊外の小規模な事件でしかなか
った。あれから、すでに三年半がすぎた。
この夏には米軍の爆撃停止が実現したの
で、いよいよシアヌーク復権は時間の間

い。私の手元の「悪記事見本」は、ほと
んどすべて、そのようなローカルな歴史
と現実への洞察を欠いたものばかりであ
り、そのことが予測を大きく誤らせて
いるのであろう。すべてが軽佻浮薄な当
世において、流動する国際環境をリアル
に見る眼が、いまこそ養われねばならな
いと思う。

(東京外語大助教授)